

広報かわにし

県知事選挙終わる

すくなかった無効票

注目を集めた県知事選挙は、七日午後六時をもって無事に投票を終えた。

重要視された選挙戦でありながら、スタート以来低調がうわさされ、さらに、あいにくのみぞれ模様の日候がひびいて、当日の投票率は八〇・九四パーセントと、前回(昭和三十四年、八二・一六パーセント)を下回っている。あるいは、時期的に出かせぎシーズンであった影響も見がけない。しかし、全県の平均にくらべた場合、投票率もはるかに高く、内容を検討してみても、いたずら書きや白紙投票がほとんど皆無に近かったのは、投票の質において、りっぱな選挙であったと言える。町では、正しい権利の行使がなされたと見るべきである。

開票結果は次のとおり

選挙当日の有権者数 八二四三人
投票者数 六六七二人
(男三二〇・女三五五二)

投票率 八〇・九四パーセント
(男七八三〇・女八三四〇)

投票総数 六六七二票
有効投票 六六四〇票
無効投票 三二二票

候補者別得票数
小田 俊与 二二票
塚田十一郎 四三〇五票
小林 孝平 二二一三票

参考前回の結果 三四四二票
投票率 八二・六パーセント
(男八五八三・女七八七九)

投票総数 六九四四票
有効投票 六四四八票
無効投票 四九六票

候補者別得票数
北村 一男 四一八五票
鈴木吉治郎 二二六三票

得票数 塚田氏がうまわる

関心をよんだ保守、革新の対決△1ドも、当選した塚田候補が、町でも、全投票の約六十五パーセントをしめた。

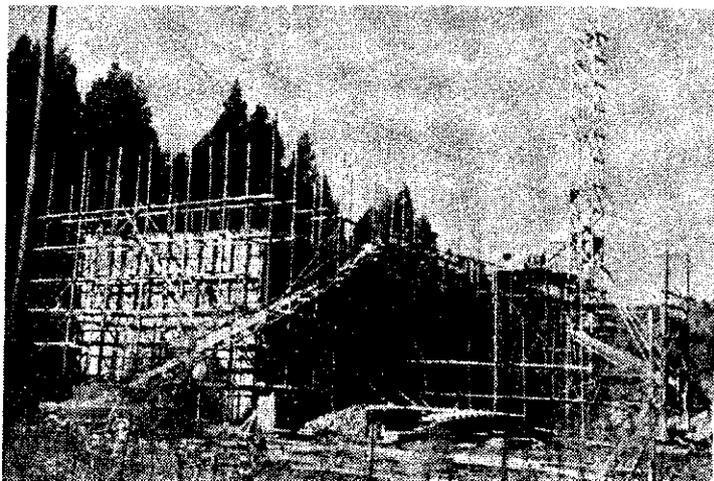
発行所 川西町役場
発行者 川西町 (町長 中村 吉郎)
編集人 星 名 四郎
印刷所 白鳥 風 社
定価 1部 5円
人口の動き
12月1日現在
男 6.881 人
女 7.028 人
計 13.909 人
世帯数 2.739 世帯

さよなら
ことしのできごと
1961年

..... ことし一年、町のできごとをふりかえってみると、今後を承継するような問題が数あることに気がつく。全町一区で執行された町議選、役場機構改革の問題、学校の統廃合、開田などがそれぞれあり、すこし目先がかわって、坪山地内の資源開発をとりあげてもよい。

一年間の足跡が、町の将来の発展にどのようにつながるか、編集者の視野で、月を追って昭和三十六年をたどってみた。.....

【一月】	六日 消防団出初式 成人講座はじまる 藤巻さん一家瘦伯 町民籠球大会 三十四年度町決算認定・議会定例会 娯楽大会、民踊大会	【二月】	二十七日 千手、上野両中学校の統合決まる。議会臨時会	【三月】	五日 町民スキ大会 十八日 統合中学校校実状調査 二十三日 三十六年度町の当初予算成立・議会定例会 二十八日 国民年金指導員会議 三十一日 千手、上野両中学校閉校	【四月】	一日 川西中学校発足 一日 国民年金保険料納入開始 六日 川西中学校校舎新位置、霜条原原に決まる。議会臨時会	【五月】	一日 才一次機構改革発令	【六月】	十二日 松葉沢溜池かさ上げ工事に着手 二十日 川西中建築に五業者を指名。議会定例会	【七月】	一日 石油資源開発測量開始(坪山地内) 十六日 街路灯完成(千手中央通)	【八月】	二十日 仙田橋竣工 二十二日 川西中建築入札 二十九日 町選報告示 五日 町議会議員選挙 七日 川西中地鎮祭 十五日 民踊流し 十七日 町民運動会 二十日 元町地区開田工事着手	【九月】	四日 新議会の構成決まる。臨時議会 十六日 才二室戸台風地視察 十九日 町議会台風被害台風見舞金の支出を議決。議会臨時会 三十日 伊勢平治、上野下平各地区開田工事着手 十二日 県下農研施設運営協議会開催 二十八日 都市青年研修会	【十月】	十日 伊勢平治、上野下平各地区開田工事着手 十二日 県下農研施設運営協議会開催 二十八日 都市青年研修会	【十一月】	五日 青年団実績発表大会 六日 赤ちゃんコンクール表彰式 七日 北村知事来町 【十二月】	四日 中島さん一家瘦伯 七日 町知事選挙 八日 町商工会設立総会 九日 川西町、十日町市議員懇談会
------	--	------	----------------------------	------	---	------	--	------	--------------	------	--	------	---	------	---	------	---	------	--	-------	---	--



いた者に、この順序によって支払われず。

※ 死亡の推定
船が沈んだり、飛行機が落ちたりしたことに...

※ 被保険者の資格の改正
準母子福祉年金の支給
拠出制において準母子年金が支給されること...

福祉年金に関する改善

※ 母子福祉年金の支給
昭和三十六年四月一日(この法律の発足の日)において、すでに準母子世帯となっていた人...

※ 支給停止制限の緩和
福祉年金の支給には、いろいろの該当要件があり、それに該当しないときは年金支給が停止されること...

通算年金通則法

※ 拠出制と同じもの
廃疾の併合認定、未支給年金、死亡の推定については、拠出制と同じく適用されるものである。

② 二十五才以上の子と生計同一による母子福祉年金の支給停止制限の廃止
母子福祉年金をもらっている人が、二十五才以上の子と生活を同じくしている場合は、その間年金をもらうことができず...

た期間も合わせ、すべての人に年金を支給することにしたものです
※ どんな制度が通算になるか
お互に通算し合う年金制度とは...

※ 支給される年金額
国民年金については、保険料を納めた期間一年につき九百円とし...

※ だが支払いを受けるか
手当の支給は、もちろん子どもではなく、その子どもを養っている人に対して支払われます。

※ 国民年金の保険料を納めた期間やおよび保険料を免除された期間やはかの制度では、被保険者または組合員であった期間が、それぞれ相互に通算されます。

※ 国民年金の保険料を納めた期間やおよび保険料を免除された期間やはかの制度では、被保険者または組合員であった期間が、それぞれ相互に通算されます。

※ 子どものおとろさんが一人だけのときは月額八百円。②子どもが二人のときは月額千二百円。③子どもが三人以上のときは、千二百円に三人自からの子一人につき二百円を加えた額が支払われます。

補完的準母子福祉年金
保険料の免除を受けていたことにより、保険料を納めた期間が足りないため、準母子世帯の要件に該当しながらも、拠出制の準母子年金をもらうことができなかった人に支給されるものです。

※ 本人所得制限の拡大
年金をもらう人に、前年度における所得額が十三万円に、義務教育終了前の子一人につき一万五千円を加えた額以上の所得があるときは、その年一カ年は、年金の支給が停止されることになっていま...

新しい法律、通算年金通則法ができました。今までは、恩給や年金をもらうためには一つの職場で二十年からの勤続がなければなりませんでしたが、この通算年金通則法ができたことにより、職場が違っているいろいろな年金制度に加入した人でも、それぞれの期間を全部合算して年金をもらえることになったのです。

※ 国民年金の保険料を納めた期間やおよび保険料を免除された期間やはかの制度では、被保険者または組合員であった期間が、それぞれ相互に通算されます。

※ 国民年金の保険料を納めた期間やおよび保険料を免除された期間やはかの制度では、被保険者または組合員であった期間が、それぞれ相互に通算されます。

※ 子どものおとろさんが一人だけのときは月額八百円。②子どもが二人のときは月額千二百円。③子どもが三人以上のときは、千二百円に三人自からの子一人につき二百円を加えた額が支払われます。

単協の整備統合がされることにより必然的に系統組織全体の合理化が促進される。

(7) 町村との連絡強化

町村の農業行政との一体化が促進されれば指導の効果が上がり、農家の福利がより増進される。

四、合併推進上の問題点とその対策

(1) 農協組織の特質からの問題点
農協は人の組織があるといわれる経済的に弱小である農民が相協力して相互の利益を擁護して行くという意味から見て個人の組織である。人の組織であることからそれは同志的かつ親和的であることが望まれることは当然である。

また農協が直接事業利用の団体であることからして、事業利用の便利のために組合の区域は狭小なことが望まれるであろう。事業の直接利用にはおのずからの物理的関係から区域の成立が一つの要件となってくる。しかしながら農協は単なる親睦団体ではない、そこには経済的有利性を追求する経済目的が人的結合の紐帯となっている。組合員の経営改善向上しようとするとき、その目的を果たすために経済事業を行なうからには単なる個人的結合体でなく、組合員の資本の結合であり生産、経済事業の結合体として作用する。経済事業を効果的に行なうには、まず有能な経営者によって経営され事業に必要な資金を充分に得て優秀な施設を設け、これを最も能率的に働かせるための適当な事業分量が必要となる、農協といえど

も、この経済事業運営の原則の枠外ではないから、他資本にうちかち、組合員に奉仕をしようとするならばその区域は必然的に大きいことが望まれるのである。

以上のことから農協の組織はその特質からして地域については相反するかに見える要素をもっているといえるわけである。

その反面経済的有利性をより強く意識し、農民の経済的団結の必要性の上になつての同志的、親和的であるならその地域もおのずから大きくなるであろう。地域的には相反するかに見える要素も、よく検討すればおのずからその調和点が見い出されるというものである。物理的条件にいたっては最近の交通、通信機関の著しい発展や道路網の発達によって大巾にその拡大を可能ならしめている。要はその本質を見つめながら、推移してゆく社会、経済情勢に対処してみずから機能をいかに強化して行くかに目を注ぐならばそこに一つの途が拓けてくるのではなからうか。

(2) 農協運営上の問題点

以上の基本的な問題の外規模が大きくなることによつて生ずる運営上の問題点もないわけではない

それぞれのケースに応じて予想される問題点については十分検討し、その対策がたてられなければならないが一般に考えられる点はおおむね次のようなものと思う。

(1) 地域が拡大されるため組合員の親和性を欠き、人的結合力が弱化するのではないか。
これは旧来の地区の觀念にとらわれることから生ずる問題であるが基本的には前述のように農協に対する目的意識の問題とも関連している。したがって同じ経済的利益を目的とする同志として相協力するように組合員教育の徹底を図るとともに部落組織、協力組織等の組織活動により人の結びつきを強くすることが必要である。

(2) 合併によつて事務所との距離が遠くなつて事業利用に不便になるのではないか。
これには事務所及び施設の位置を考慮し必要な場所には支所、出張所等を設ける措置を講ずるほか外務員活動の強化等による事実の実施方法を検討して補足する必要がある。

五、結 び

前各節において記述したとおり農協を取りまく四囲の情勢は、日にしなかも加速度的に合併を余儀なくせしめる方向に進みつつある。それは農協の上部機構がそうであるとともに下部のいや農協組織内部の情勢も現状打破を強く要望している。

もちろん農協合併をなすものは農協自体であつて町村役場ではない、しかしながら地方自治法の公共的団体の活動の総合調整を図るためには必要なる措置をとることにも認められており一面、新市町村の建設育成は市町村長の至上任務でもある。

かかる情勢下に役場としては、主管課において川西町農協同組合組織整備協議会の設置を検討しているが近く実現を見ることである。この協議会を母体として各農協の一進一退を繰り返しながらも時代の潮流と住民の良識はりっばにこれをなすこととく現代

農民の良識は、時代の潮流を背景として農協合併の大事業を必ずやなしとけるであろうことを信じて疑わないのである。
おおかた組合員諸氏の御理解と御協力を切望する次第である。

(Bページ年金法につき) 事務を始めます。来年一月分より支給を始めますが、その才一回の支払いは来年三月に実施されます。年金の届け出は終わりましたか
皆さんからの申し出がないかぎり手続きを進めることができないのです。はっきりわからない人でももし該当するのではないかと思ふ人は、急のため係までご相談ください。届け出をしなればならない人とは次の人たちのことです。未届けの拠出制被保険者、拠出制国民年金の被保険者となるべき人、およびなされる人、まだ資格届けをやっていない人。
※ 母子福祉年金・・・福祉年金の支給停止制限の緩和によつて、母子福祉年金に該当する人。
※ 準母子福祉年金・・・現在すでに準母子世帯であつて、経過的準母子福祉年金に該当する人。
※ 児童扶養手当・・・現在すでに児童扶養手当に該当している人

届けるには、印かんを持参してください。
不明のこと、疑問のことは、ご連絡なく社会係までお申し出ください。(TEL) 千手 一〇番・有線放送 三三二回線二番)

スポーツ界は大型とテクニクがマツチした時代のように、しかも、大型というのは欠かせない条件らしい。美しいという抽象的なものすら、スケールの大きさということ

が基調で、体操競技などはそのよい例である。スポーツにおける力規模が体格と関係があり、それなら、体位の向上は食生活から、食生活の改善はまず学校給食からという我田引水をしてみたい。町の学校給食の状況はというと、現在八力校が脱脂ミルクだけの補食給食を実施している。ミルクが身長体重の増進に非常な効果があることとはだれでも知っており、子どもたちも給食指導によつてよく理解している。そこで、子どもたちはミルクを喜んで飲んでくるといふところばかりではない。ミルクだけでは単調だし、成長期にあつて、完全給食をやつてこそ、ミルクの効果が倍加することを子どもたちは知っているのだから、補食給食では食生活の是正にならないとおとなは習慣化されているので給食によつて、子どもの時代から習慣打破するの一番よい方法だと聞くとき、町の子どものための要求は、主食とミルクの完全給食の実現につながっていると思われなければならない。回数にすれば日に一度だから、完全給食の効果測定はむずかしいが、習慣形成あるいは学校給食が、地域の食生活に与える影響は大きく、学校での給食は、あらゆる面で類を呼ぶ可能性が強いと思う。(Z)

ことしの移民第二号

中島さん一家ブラジルへ

「塩辛の牛乳屋さん」で親しまれてきた藤巻さん一家(本年一月三十一日出発)に続いて、南米ブラジルへ移民された中島之夫さん(四十二才)は、旧上野村田代の人で、妻イクさん(四十三才)長男直行君(十才)二男春之君(五才)の家族ぐるみあわただしい年の瀬を後に、十二月四日横浜港からブラジルへの壮途についた。

現在の社会情勢の変化によって生産性は上らず、将来の希望もこの土地では持てないのでブラジル移民に踏み切った。しかし、これまでは親類からいろいろ反対もあったがわたくしは先に渡伯して親類の者たちも呼びよせるつもりだ」と語っていた。



一家をあげての移住であり、財産その他の整理で大変忙しい日を送られてきたが、待ちわびていた出航の日が知らされ、十一月二十四日みぞれ降る故郷を後に横浜の移住あっせん所へ入り、最後の教育をうけ、横浜港よりあるせんちな丸で太平洋を横断、パナマ運河を通過して四十日の船旅を終わり、兩伯のサントスへ上陸されることになってゐる。

町の掲示板

育林コンクール入賞者

十月号本紙でお知らせした郡市の育林コンクールの結果、町関係の入賞者は次のとおり。

県農村教育青年会議 冬期研修会

きたる二十日・二十一日の両日

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 保坂 篤 晋 二男 大白倉
田中 仁子 理市長女 小白倉
小林 玲子 平作長女 中仙田
田口 孝子 鉄治郎二女 木落
山田 俊彦 弘一長男 仁 田
鈴木 準一 義二男 新町新田
上村 利昭 治郎長男 上野
小海 利信 徳治二男 小根岸
中条 優 平吉二男 木島

長岡市農研会館に、県下の農村青年クラブ員、ラジオ農業学校研修生、農研グループ員を集めて開催される。町からは、数藤伸治さん(沖立)、清水寿美江さん(下平新田)が、それぞれ男女代表として出席、分科会を中心として農村における各種の問題を研究、討議する。

郵便局の窓口から

年賀はがきの特別取り扱い期間は十五日から二十三日まで。小包は十五日から二十三日まで。

室島に婦人学級

十三日午後一時から部落公民館で開講式を開く。室島婦人会(増田アヤ会長)の骨折りで、春以来の要望がようやく実を結んだもの。学級生は六十三名、学級長には増田美代子さんが決まった。

役場の正月休み

二十八日が御用納め、二十九日から三日までお休みをいただきます。

昇天—御めい福を祈る

昇天—御めい福を祈る

佐藤 駒治 霧谷 七〇
登坂 駿三 岩瀬 五一
川崎 ハツ 越ヶ沢 七九
中条 文江 岩瀬 三
南雲 スイ 中仙田 七六
青木 ナツ 田戸 七二
登坂 キクエ 赤谷 五〇
南雲 キチ 中仙田 七二
南雲 達治 中仙田 五七
村越 真一郎 塩辛 八二
藤巻 真一郎 塩辛 八二
上村 巳之作 塩辛 八〇
高橋 タカ 三嶺 八五
高橋 平政 坪山 六九
小野 塚ヤス 中央町 七六
星名 松雄 神立 七八
小林 チヨ 山野田 七六

- 丸山 健治 東善寺
三輪 アヤ 十日町から
小林 末男 中屋敷
小島 ヒロ 十日町から
相崎 好信 沖立
小池 照子 東京から
高橋雄二郎 木島
井ノ川サチイ 貝野から
教藤 倅一 沖立
高橋 ヒデ 伊友から
中島 喜一 田代
星名 トキ 伊友から
鈴木 義友 新町新田
佐藤ミツエ 小千谷から
上村 次雄 上野
根津 朝子 上野から
小林 誠治 元町
上村 マサ 上野から
戸田 勇 仁田
丸山 節子 下原から
長谷川 末良 赤谷
黒田 靖子 北海道から
増田 松治 室島
高橋 正能 室島から
小川 増藏 岩瀬
柳田 節子 桐生市から
登坂 忠作 赤谷
杉山ナミ江 茨城県から

- 高橋 重信 中仙田
中条キヨ子 岩瀬から
小林 勇一 中仙田
金沢 ソメ 新井市から
増田 宏一 中仙田
茂野 美江 室島から
引間 静子 中仙田
青山 浩介 十日町から

※かわにし俳壇、都合により本号は休載いたしました。こんども、どしどし作句をお寄せください。※町議選、県知事選挙と身近な選挙をふたつも経験したことし一年も、あますところわずかに「人同じからず」というけれども、年の暮れという平凡な表現、使いたこととはの中に、さまざま思いがこめられています。※本紙も、発刊以来四度目の年の瀬というところだろうか、数ある曲折を経て、町のみなさんの、広報に対する要望も、年ごとに変化があつて不思議はありません。※編集者としてのつとめを考えると、仕事にたずさわつてこのかた機会あるたびに、広報の本質といった面によつてきましたが、選択すること、紙面を創造する作業の中で、みんなの広報をつくるのが、いかにむずかしいことか、ほとほと感じさせられます。※それと同時に、広報をみなさんの手で育てていただきたいと思わずにいられます。広報の歴史に、もう一つの曲折がほしい点です。単なる公報紙で終わることなく、町づくりに貢献できるような「広報かわにし」でありたいということ、それは、教育委員会に所属している場所がためでもあります。※発句のひとつが「町の声」のひとつまが大きな力となります。技術的なコツを早くのみこんで、町づくりにつながる広報づくりの職人になろうと、年をふりかえつてみました。